御陵參道改良工事竣る

齋藤德之助

紀元二千六百年奉祝會に於ては光輝ある二千六百年奉祝記念事業として各種の意義ある事業を企畫せられ、既に其の偉業を完成せられたのである。御歷代帝陵の參道改良工事は其の事業の一であつて、最も莊重森嚴なる事業と稱へらる。

蓋し皇謨の宏遠にして天壤と窮り無く、國體の奠嚴なる萬邦に冠絕せるを仰ぎて思を茲に致すとき、烈聖の御盛德を景仰し御陵謹拜者逐日增加するの趨勢は神洲に生を相享けたる者の蓋し當然と謂ふべきである。

然るに從來御陵參拜道路の狀況を顧るに、舊態依然として纔かに步行者を導くに過ぎず誠に畏き極みであつた。

茲に紀元二千六百年奉祝會の委囑を受け、本縣竝に京都府、市に於て改良を施行せられた御陵道は、奈良縣に於ける安寧天皇畝傍山西南御陰井上陵外二十六御陵京都府に於ける淳和天皇大原野西嶺上陵、京都市に於ける六條天皇清閑寺陵外十二御陵の參拜道路であり、昭和十四年六月着工以來鋭意工を進め本年八月に至り清和天皇御陵道を除く外は全部竣成を告げるに至つた。之が改良總延長實に三十粁有餘幅員三・六米乃至五・五米であり何れも近代交通に適する如く立派に改良せられた。

此の工事費金六拾四萬八千餘圓であり、之に地元竝に全國より勤勞奉仕の赤誠を捧げたる者の數は實に十萬人近くを算することが出來る。是れ偏に御聖德の然らしむる所であり、恐懼感激の極みである。其の內奈良縣に委囑せられた工事は前記御陵の參道で、總延長十八粁二幅員三・六米乃至四・五、米工事費三〇五、五〇〇圓を以て施行せられた。

昭和十四年六月孝昭天皇掖上博多山上陵竝に孝靈天皇片丘馬坂陵の參道工事を最初に着工し、本年八月後醍醐天皇塔尾陵參道工

事を以て竣功した。此の內後醍醐天皇塔尾陵の參道工事は、場所が山間部に位する外名勝地吉野山を抱擁する關係上最も難工事であり、工事費も最も莫大にして七六、〇〇〇圓を費し、延長一、七一四米を幅員三・六米に立派に自動車交通が出來るやうになつた。此區間には延長二〇米の隧道も開鑿せられ其の名を「參陵隧道」と冠し文字は松平宮內大臣に題せられたのである。以上の工事には縣下各種團體は勿論他府縣の有志團體からも振つて勤勞奉仕に參加せられ、其の奉仕人員實に七萬人に達したことは感激措く能はざる次第である。今回改修せられた御陵道は何れも內務省の認可を得て府縣道として路線の認定をせられ、爾來縣に於て維持管理を致すこととなつた。そこで御聖德の尊嚴を崇仰するためのみならず、叙上の如き全國からの赤誠に報ゆるためには、縣としては將來斯く立派に改良せられた御陵道をより良く維持せねばならぬ義務がある次第で、縣としても充分維持管理に意を用ふるのは勿論ではあるが、些かなりとも不都合の無きやうにする爲、先般來支那事變四週年記念日をトし縣下一齊に各御陵道の奉仕團が結成せられたので、是等奉仕團員の方々には今後一層の御協力を御願致度希求する次第である。

昭和十六年十一月二十六日中央奉祝會の主催の下に、懿德天皇畝傍山南纖沙溪上陵の前で崇嚴に且盛大に竣功式が擧行せられた。此の日秋晏一點の曇りなく和風四海を包む寔に好日和であつた參列せられた朝野の名士實に九百人に達し、午前十時三十分後開權宮司以下神官十四人司祭し、嚴肅裡に祭式は開始せられ、奏樂の音は參列員一同を緊張せしめた。開式に入るや紀元二千六百年奉祝會長（代讀佐々木侯爵）の式辭、內閣總理大臣（代讀歌田祝典事務局長）宮內大臣（代讀宮野奈良博物館長）內務大臣（代讀佐藤大阪土木出張所長）及山內奈良縣知事の祝辭朗讀あり、山極土木課長の工事報告があつた。

特に總理大臣祝辭に「此等諸事業ハ盡ク之國體尊崇ノ範ヲ後世ニ垂ルルト共ニ遠ク肇國創業の洪謨ヲ瞻仰シ列朝ノ聖德ヲ景仰シ奉ルノ所以ニ非ルナシ」と述べられ、此の事業の特に國體尊崇、聖德景仰の顯現なる所以を敷衍せられ、尙「之ニ依リテ益々皇陵尊崇ノ風ヲ起シ紀元二千六百年奉祝記念ノ他ノ諸事業ト相俟チテ愈々惟神ノ大道ヲ擧グルニ資スルトコロアランカ本事業竣成ノ意義寔ニ大ナリト謂フベシ」、「本事業ノ後ヲ承道路ノ保全ニ熱誠奉仕ヲ致シ」と結び、本工事の效果の絕大なることを明示された。誠に意を强ふする所以で、今後此意を體し、大に本道路の維持經營に努力せねばならぬことを痛感した次第である。

此の日は特に放送局より出張し、式の實況を全國中繼を以て放送せられた。

斯くて竣功式は終始莊重裡に正午幕を閉ぢたのである。

祝辭

紀元二千六百年奉祝記念事業タル　御陵參拜道路改良工事竣成ヲ告ゲ茲ニ之カ式典ヲ擧行セラル邦家ノ爲洵ニ慶祝ノ至リニ堪ヘズ

虔ミテ按ズルニ神武天皇大和橿原ノ地ニ皇都ヲ奠メ寶位ニ登リ一系無窮ノ丕基ヲ肇クシ給ヒテヨリ萬邦ニ冠絶スル國體ノ精華ヲ傳ヘテ國運愈々隆昌正ニ昨年ヲ以テ紀元二千六百年ヲ迎ヘタリ我等民生昭代ニ生レテコノ盛期ニ遇ヒ無上ノ感激ヲ覺エ乃チ當ニ國ヲ擧ゲテ奉祝ノ至誠ヲ表シ　皇軍ノ扶翼ニ率勵センコトヲ期シタルモノ大ニ其ノ所以アリト謂フヘシ

紀元二千六百年奉祝會ハ全國民ノ要望ニ應ヘコノ光輝アル紀元二千六百年ヲ奉祝記念シ此ノ國民的感激ヲ後世ニ傳ヘンコトヲ期シ各種ノ記念事業ヲ終始シ樞要ナル諸事業順次竣成ヲ告ゲ今乃チ御陵參拜道路改良工事就レリ此等諸事業ハ盡ク之國體尊崇ノ範ヲ後世ニ垂ルヽト共ニ遠ク肇國創業ノ洪謨ヲ瞻仰シ

列朝ノ　聖德ヲ景仰シ奉ルノ所以ニ非ルナシ今ヤ中外非常ノ世變ニ際リ當ニ朝野一體曩ニ紀元二千六百年紀元節ニ當リ賜ハリタル聖詔ヲ奉ジテ益々國體ノ精華ヲ發揮シ以テ時艱ノ克服ヲ致シ以テ國威ノ昂揚ヲ昌メ皇祖皇宗ノ神靈ニ對ヘ奉ラザル秋此ノ事業ノ就ルアリ之ニ依リテ益ゝ皇陵尊崇ノ風ヲ起シ紀元二千六百年奉祝記念ノ他ノ諸事業ト相俟チテ愈々惟神ノ大道ヲ擧グルニ資スルトコロアランカ本事業竣成ノ意義寔ニ大ナリト謂フベシ　茲ニ關係者各位ノ勞功ヲ深ク多トスルト共ニ特ニ地元府縣住民各位本事業ノ後ヲ承道路ノ保全ニ熱誠奉仕ヲ致シ以テ皇陵尊崇ノ實踐ニ挺身セラレンコトヲ切望シテ已マズ

本日ノ盛典ニ當リ一言ヲ述ベテ以テ祝辭トナス

昭和十六年十一月二十六日

内閣總理大臣　東條英機

祝辭

御陵參拜道路改良ノ工竣リ茲ニ式典ヲ擧ゲラル寔ニ慶賀ニ堪ヘズ謹テ惟フニ聖戰既ニ五年此ノ間皇軍將兵ノ盡忠報國ノ至誠ト銃後國民ノ熱烈ナル後援協力ニ依リ赫々タル戰果ヲ大陸ニ收メ以テ國威ヲ八紘ニ輝カシムルヲ得タルハ素ヨリ大稜威ノ然ラシムルトコロナリ此ノ秋ニ當リ歷朝ノ御聖德ヲ敬慕追仰スル御陵參拜者頓ニ其ノ數ヲ加ヘツツアリシガ御陵參拜道路ノ狀況ハ概ネ幅員狹隘且維持全カラザルノ狀態ニシテ洵ニ畏レ多キ極ナリキ

紀元二千六百年奉祝會思ヲ茲ニ致シ奉祝記念事業トシテ昭和十四年御陵參拜道路改築ノ工ヲ起シ爾來幾多ノ困難ヲ克服シ地方民又進ンデ勤勞奉仕ヲ爲シ茲ニ之ガ完成ヲ見ルニ至レリ

惟フニ本道路ノ完成ハ歷代ノ御聖德ヲ追慕シ奉リ皇運扶翼ノ赤誠ヲ振起セシメ以テ國民精神ノ作興ニ資スルヤ大ナリト謂フベシ

冀ハ官民一致協力シ之ガ維持管理ニ努メ永ヘニ本事業ノ成果ヲ後代ニ傳ヘラレンコトヲ本日ノ盛典ニ當リ一言所懷ヲ述ベテ祝辭トナス

昭和十六年十一月二十六日

內務大臣　東條英機

蔣の輸血路滇緬公路の樣々

淡路生

今や瀕死の狀態にある重慶政府にとつては、その輸血路として西南ルートの確保如何は極めて重要な問題であると共に、我國の東亞共榮圈確立を妨害せんとする英米も亦このルートの確保に至大の力を致してゐる、ワシントン當局者の言明として傳ふるところに依ると、

米國は萬一の場合が來れば重慶援助を強化し必要とあらば滇緬公路經由重慶迄の軍需輸送に對し米國海軍が大西洋航路に於てやつてゐるやうな護送をも行ふであらう、陸上護送の內容については未だ明かにされてゐないが恐らくは空軍部隊を以て滇緬公路上を哨戒せしめ、軍需輸送乃至同公路を破壞せんとする爆擊機に對し發見次第發砲せしめることゝならう。

と言つてゐるが、昨年十二月四日のサンフランシスコ、クロニクル紙上に於て米國知名の評論家ヴインセント・シーエン氏は滇緬公路に關して、

近代的機械等を使用せずして只だ多數の人力に依つて建設した滇緬公路は、最初の豫定の如く却々能率が上らず、又幾多の醜態を演じてゐる、十月中にラングーンを積出した一萬八千噸の物資の內重慶に到着したのは僅かに千二百噸に過ぎないといふ有樣である。米國の武器貸與法による物資の輸送はまだ開始してゐないが、これは米國では物資が蔣政權の手許まで到着することが確實でない限り貸與法は實施せない方針とも云はるゝのである。道路運營に關し米國人が道路を管理すべしとの意見も